

岡山県感染症週報 2014 年 第 45 週 (11 月 3 日～11 月 9 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 45 週 (11/3～11/9) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 43 週 2 類感染症 結核 6 名

(30 代 女 1 名、40 代 男 2 名、70 代 男 1 名、80 代 男 1 名・女 1 名)

第 44 週 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (70 代 女)

第 45 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 女)

■定点把握感染症発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体で 352 名 (定点あたり 5.70 → 6.52 人) の報告があり、前週より増加しました。

○インフルエンザは、県全体で 9 名 (定点あたり 0.05 → 0.11 人) の報告があり、前週より増加しました。

○水痘は、県全体で 61 名 (定点あたり 0.65 → 1.13 人) の報告があり、前週より増加しました。

○RS ウイルス感染症は、県全体で 45 名 (定点あたり 0.43 → 0.83 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)の発生報告は、ありませんでした。岡山県の 2014 年累計報告数は 68 名となっています。岡山県では、「[腸管出血性大腸菌感染症 警報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症 警報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 352 名 (定点あたり 5.70 → 6.52 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市 (9.27 人)、備北地域 (8.25 人)、岡山市 (6.86 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、0-2 歳で 32%と最も多く、5 歳以下の乳幼児が全体の 57%を占めています。第 44 週全国集計によると、都道府県別では、大分県 (7.14 人)、香川県 (6.72 人)、富山県 (6.52 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。流行シーズンである冬季に向けて、今後の発生状況に注意するとともに、手洗いや下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。この感染症は、通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。
3. [インフルエンザ](#)は、県全体で 9 名 (定点あたり 0.05 → 0.11 人) の報告があり、前週より増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
4. [水痘](#)は、県全体で 61 名 (定点あたり 0.65 → 1.13 人) の報告があり、前週より増加しました。県内の発生状況など詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
5. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 45 名 (定点あたり 0.43 → 0.83 人) の報告があり、前週より増加しました。10 月以降、増減を繰り返しながら推移しています。地域別では、岡山市 (1.86 人)、美作地域 (1.50 人)、倉敷市 (0.64 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。2014 年第 45 週までの年齢別累計割合では、1 歳未満の乳児が全体の 51%、ついで 1 歳が 32%となっています。第 44 週全国集計によると、定点あたり 1.09 人の報告があり、2 週連続で増加しています。都道府県別では、熊本県 (3.28 人)、山形県 (3.20 人)、宮崎県 (3.11 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、例年秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 ・ 前週からの推移：  : 2 倍以上の減少  : 1.1～2 倍未満の減少  : 1.1 未満の増減

 : 1.1～2 倍未満の増加  : 2 倍以上の増加

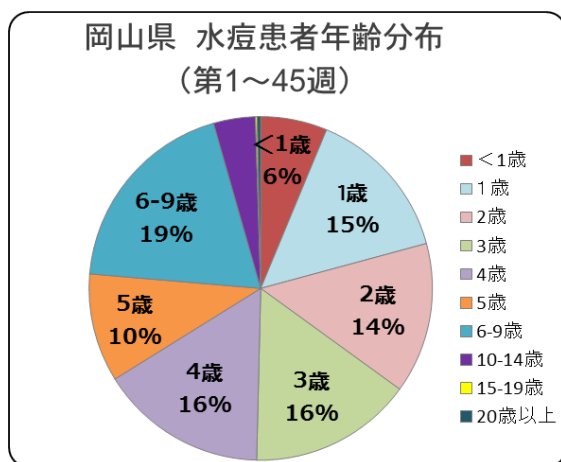
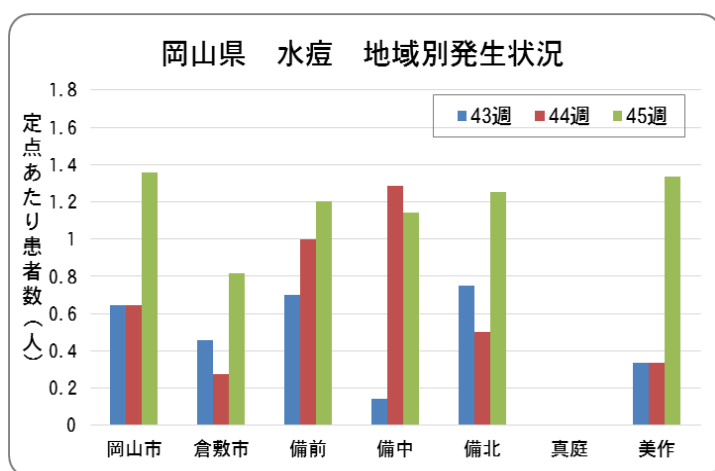
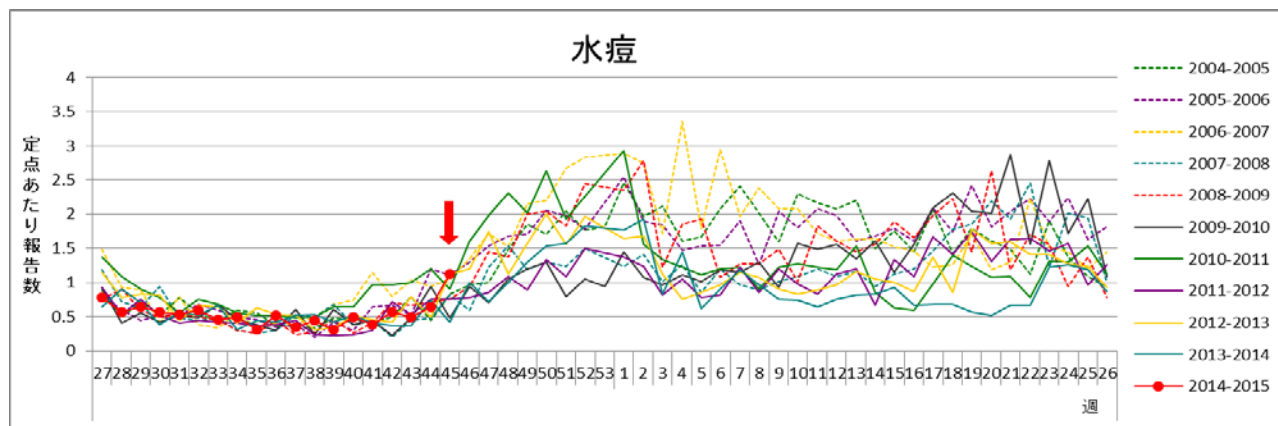
・ 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症 水 痘

【岡山県の発生状況】



水痘は、県全体で61名（定点あたり0.65→1.13人）の報告があり、前週（35名）より増加しました。地域別では、岡山市（1.36人）、美作地域（1.33人）、備北地域（1.25人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に美作地域では、前週（0.33人）に比べて大きく増加しています。2014年第45週までの年齢別分布では、6～9歳19%、3歳及び4歳16%、1歳15%の順で多く報告されており、1～5歳の幼児が全体の71%を占めています。この感染症は、例年12～7月にかけて多くの患者が報告されており、今後、増加も懸念されますので、県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。

【水痘とは】

水痘は、いわゆる「水ぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる急性の感染性疾患です。このウイルスの感染力は、極めて強く、発しん出現の1～2日前から出現後4～5日、あるいはかさぶたになるまで人にうつる可能性があります。例年12～7月に多くの患者が報告されており、9歳以下の小児期に多く発生します。

【症 状】

通常2週間前後（10～21日）の潜伏期間を経て、発しん、倦怠感、発熱を主症状として発症します。発しんは全身性でかゆみを伴い、短時間で水疱、かさぶたへと変化します。通常は小児期に多く発生する予後良好な疾患ですが、脳炎、熱性痙攣、肺炎、気管支炎などの合併症も報告されており、成人が発症すると重症化するリスクが高くなります。水痘は、治癒した後でもウイルスが知覚神経節に潜伏感染しており、感染者の免疫が低下した場合や高齢化などに伴って再活性化し、将来にわたって帯状疱疹を発症する可能性があるといわれています。

【治 療・予 防】

通常、皮膚の消毒・消炎・保護などの目的で軟膏の外用が行われ、二次感染を起こした場合には抗菌薬の投与を、重症例などでは抗ウイルス剤の投与などによる治療が行われます。

水痘の有効な予防法は、予防接種を受けることです。[2014年10月1日より、水痘ワクチンが定期接種となりました。](#)定期予防接種の対象となる方は、予防接種を受けましょう。定期予防接種について詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。

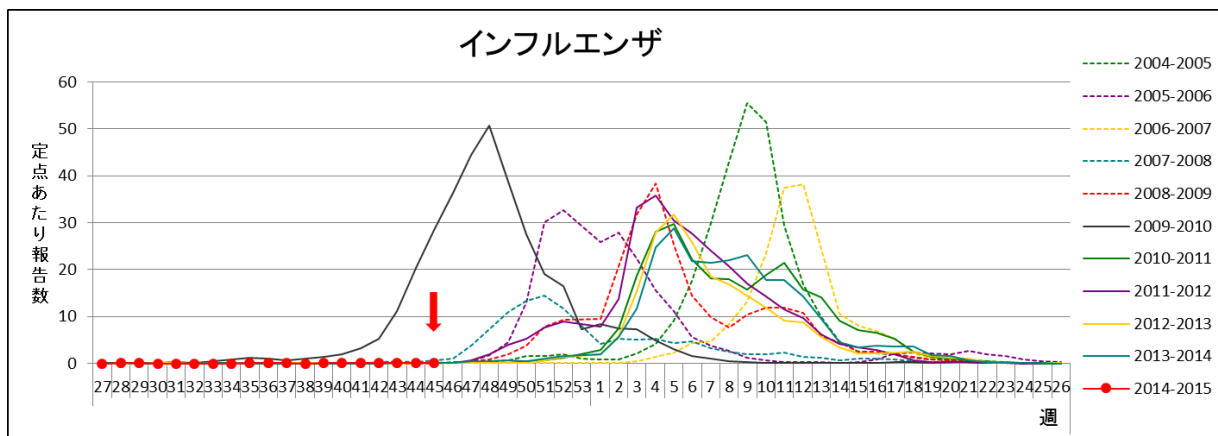
[水痘とは（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2014 年 第 45 週 (11 月 3 日 ~ 11 月 9 日)

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 9 名の発生がありました (84 定点医療機関報告)。

○インフルエンザによるとみられる学校の臨時休業、入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、備中地域で 4 名、倉敷市で 3 名、岡山市及び美作地域で各 1 名の報告があり、県全体では 9 名 (定点あたり 0.05 → 0.11 人) の発生となりました (84 定点医療機関報告)。県内の発生は、まだ散発的ですが、患者報告数はわずかに増加しています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、全国では、インフルエンザによるとみられる学校の臨時休業が、3 週連続で増加しています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

インフルエンザにかからないようにするには

1. 流行前に、予防接種を済ませましょう。

- ・ワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかることから、**12 月中旬までには予防接種を済ませましょう。**
- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型が変わるため、毎年、接種することが望めます。

2. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗い・うがいを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・乾燥しやすい室内では、加湿器などで適度な湿度 (50~60%) を保つことも効果的です。
- ・体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を日頃から心がけましょう。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大切です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット※を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症化しやすいお年寄りや小さな子ども、妊婦、持病のある方などには、なるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・患者さんと接するときは、念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

※せきエチケットとは

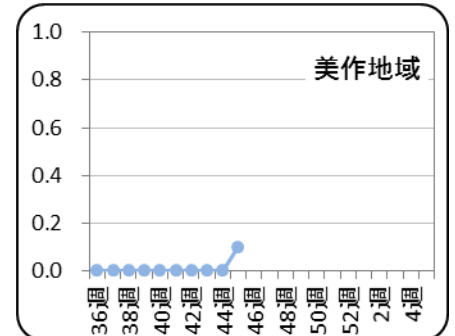
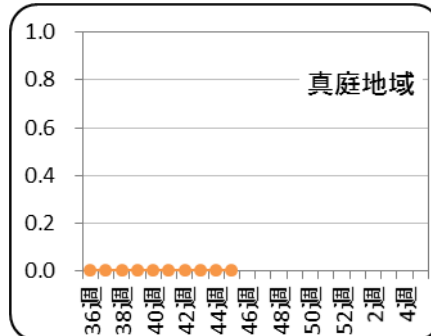
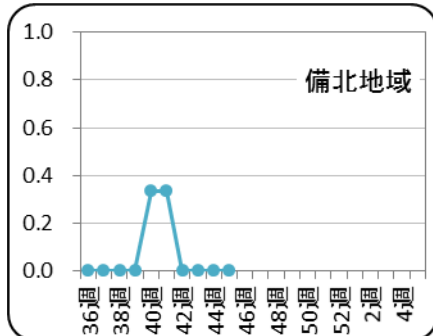
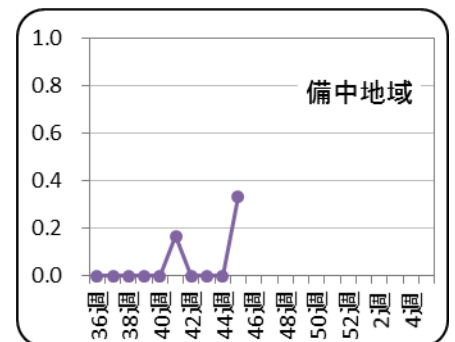
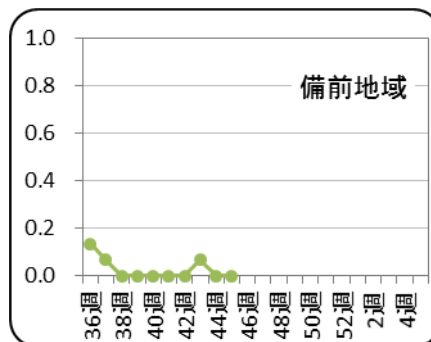
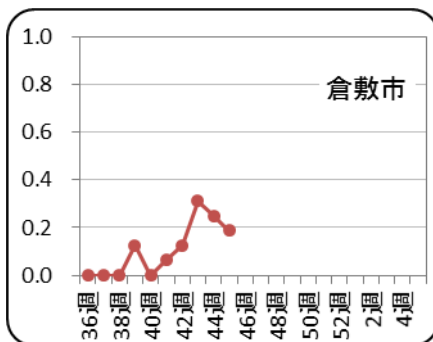
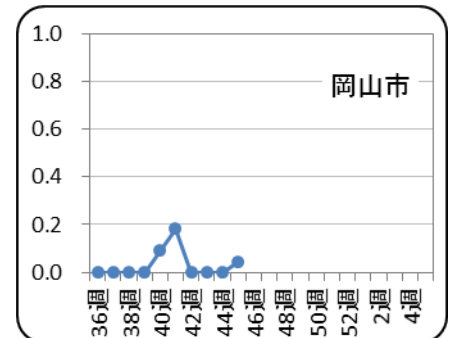
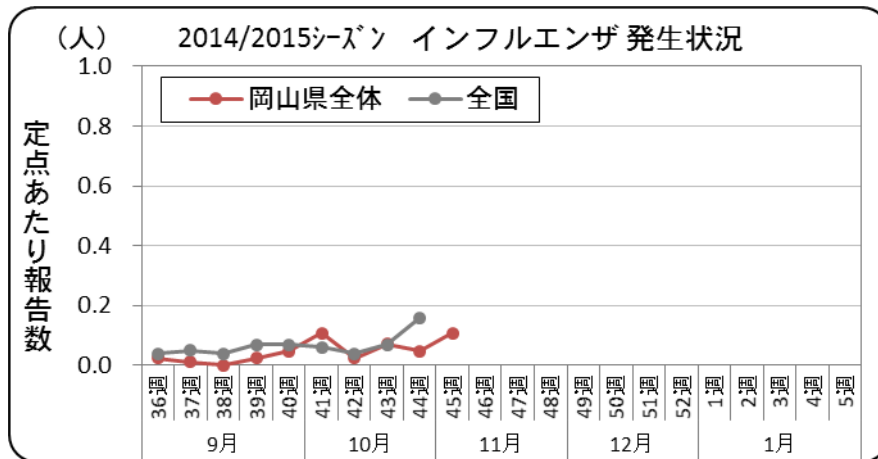
人に向かって、せきやくしゃみをしないことです。とっさにせきやくしゃみが出そうな時は、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで、口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時は、マスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュは、すぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	9	↑	備 中	患者数	4	↑
	定点あたり	0.11			定点あたり	0.33	
岡山市	患者数	1	↑	備 北	患者数	—	→
	定点あたり	0.05			定点あたり	—	
倉敷市	患者数	3	↘	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	0.19			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	→	美 作	患者数	1	↑
	定点あたり	—			定点あたり	0.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 → 1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



2. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26. 10. 21
岡山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉敷市	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26. 10. 21
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 45 週 : 0 施設

累計 : 1 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—

保健所別報告患者数 2014年 45週 (2014/11/03～2014/11/09)

2014年11月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	9	0.11	1	0.05	3	0.19	—	—	4	0.33	—	—	—	—	1	0.10
RSウイルス感染症	45	0.83	26	1.86	7	0.64	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	9	1.50
咽頭結膜熱	11	0.20	1	0.07	1	0.09	1	0.10	2	0.29	—	—	3	1.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	21	1.50	8	0.73	1	0.10	—	—	4	1.00	—	—	5	0.83
感染性胃腸炎	352	6.52	96	6.86	102	9.27	66	6.60	18	2.57	33	8.25	1	0.50	36	6.00
水痘	61	1.13	19	1.36	9	0.82	12	1.20	8	1.14	5	1.25	—	—	8	1.33
手足口病	13	0.24	6	0.43	—	—	1	0.10	6	0.86	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	18	0.33	6	0.43	3	0.27	2	0.20	2	0.29	2	0.50	—	—	3	0.50
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	5	0.09	1	0.07	1	0.09	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	4	0.07	—	—	1	0.09	—	—	3	0.43	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 45週 (2014/11/03～2014/11/09)

2014年11月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	9	0.11	1	0.05	3	0.19	—	—	4	0.33	—	—	—	—	1	0.10
咽頭結膜熱	11	0.20	1	0.07	1	0.09	1	0.10	2	0.29	—	—	3	1.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	21	1.50	8	0.73	1	0.10	—	—	4	1.00	—	—	5	0.83
感染性胃腸炎	352	6.52	96	6.86	102	9.27	66	6.60	18	2.57	33	8.25	1	0.50	36	6.00
水痘	61	1.13	19	1.36	9	0.82	12	1.20	8	1.14	5	1.25	—	—	8	1.33
手足口病	13	0.24	6	0.43	—	—	1	0.10	6	0.86	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	5	0.09	1	0.07	1	0.09	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	4	0.07	—	—	1	0.09	—	—	3	0.43	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第45週 2014/11/03～2014/11/09)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	9	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	2	1	-	-	1	-	1	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	45	5	13	13	6	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	-	-	3	1	1	3	-	-	1	1	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	2	1	4	3	1	8	5	5	2	8	-	-
感染性胃腸炎	352	6	25	50	35	45	28	27	19	12	6	11	34	9	45
水痘	61	3	2	12	9	6	6	5	3	6	2	-	7	-	-
手足口病	13	-	1	5	-	-	-	2	1	3	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	18	-	13	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	5	-	-	2	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-

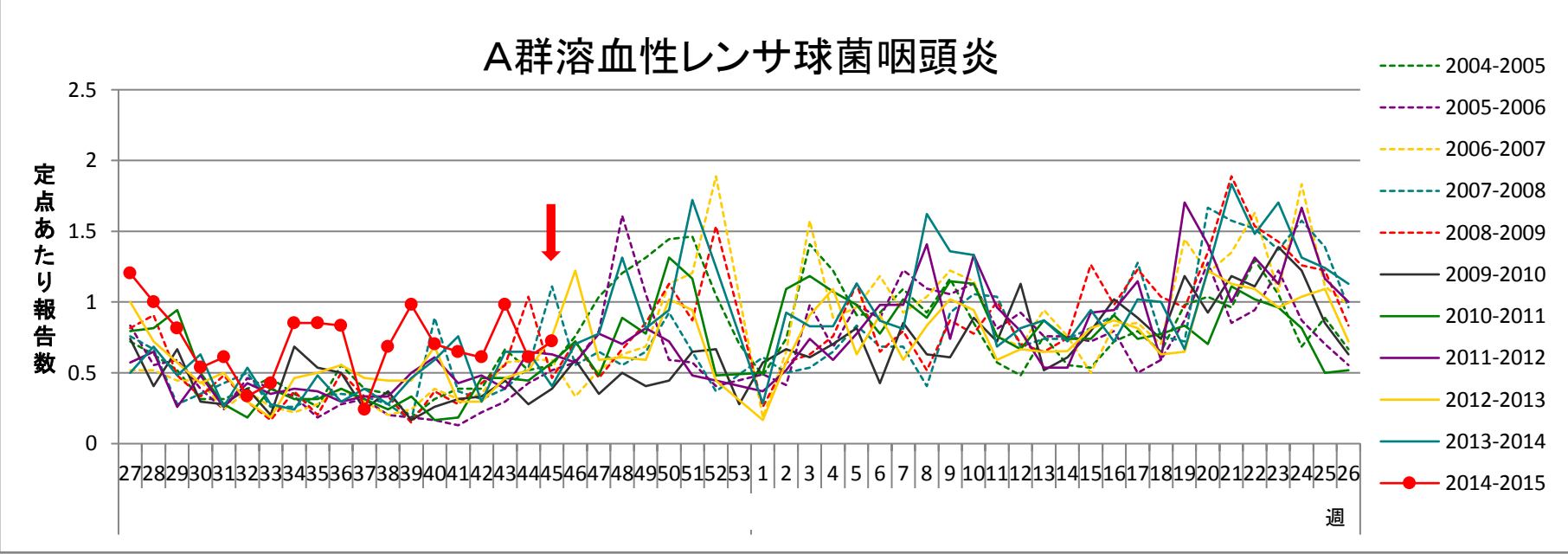
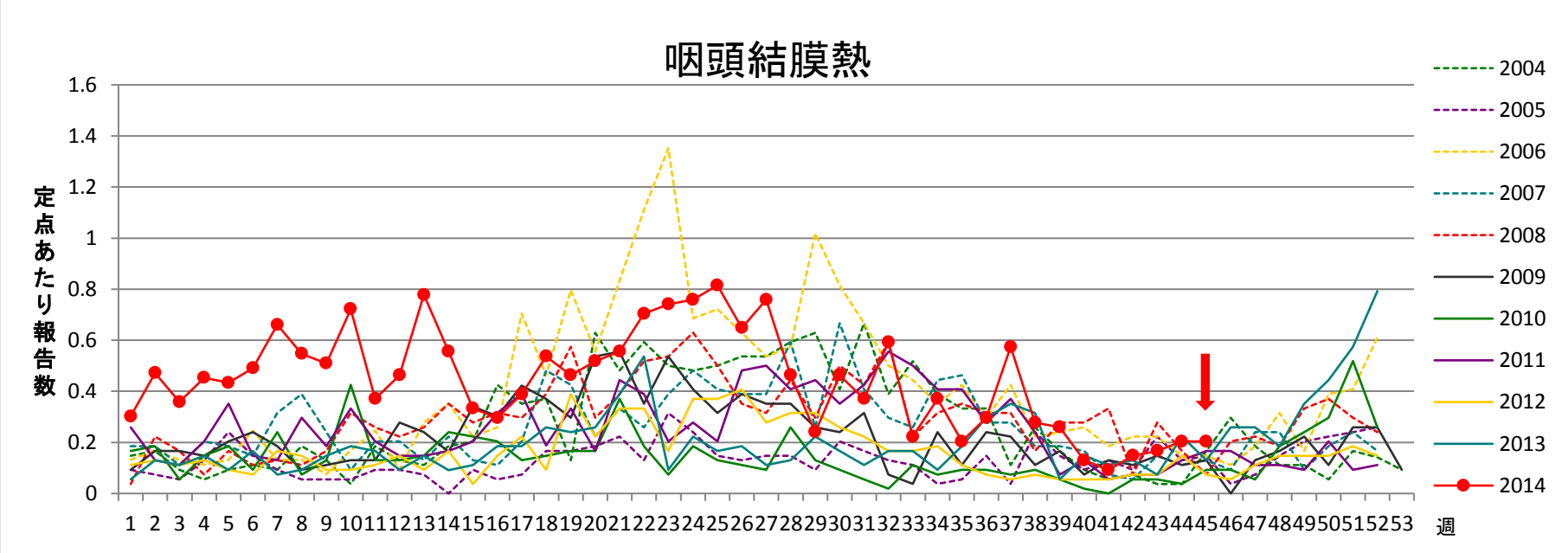
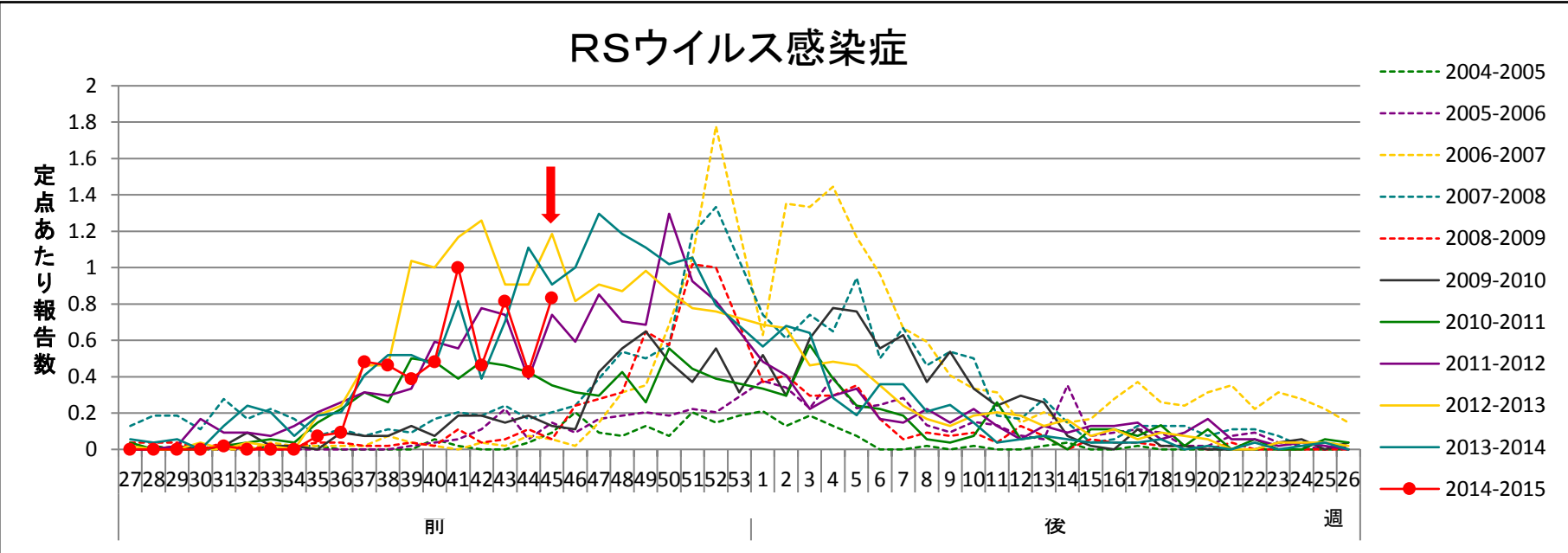
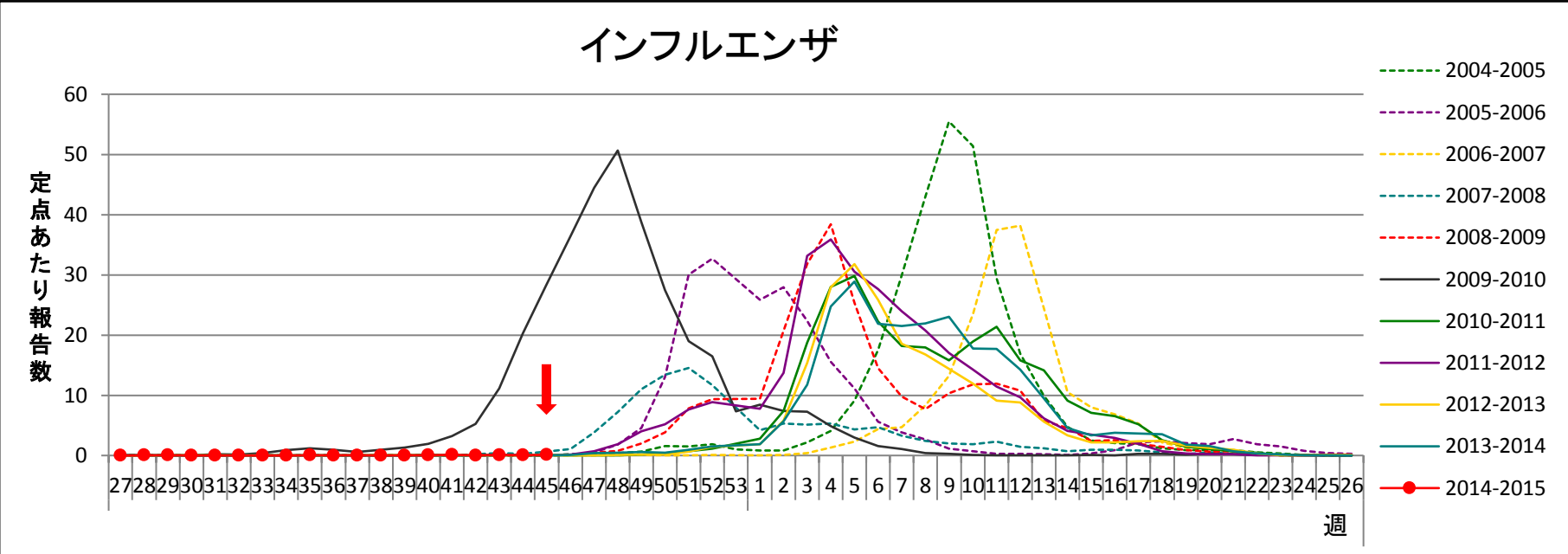
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

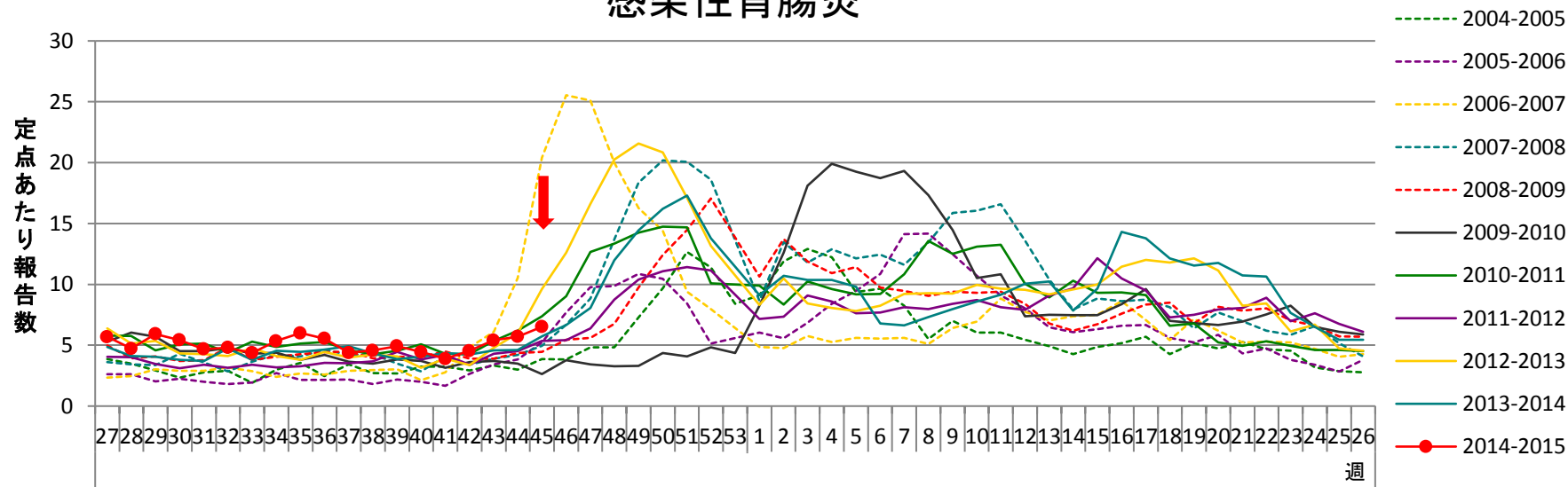
全数把握 感染症患者発生状況

2014 年 45 週

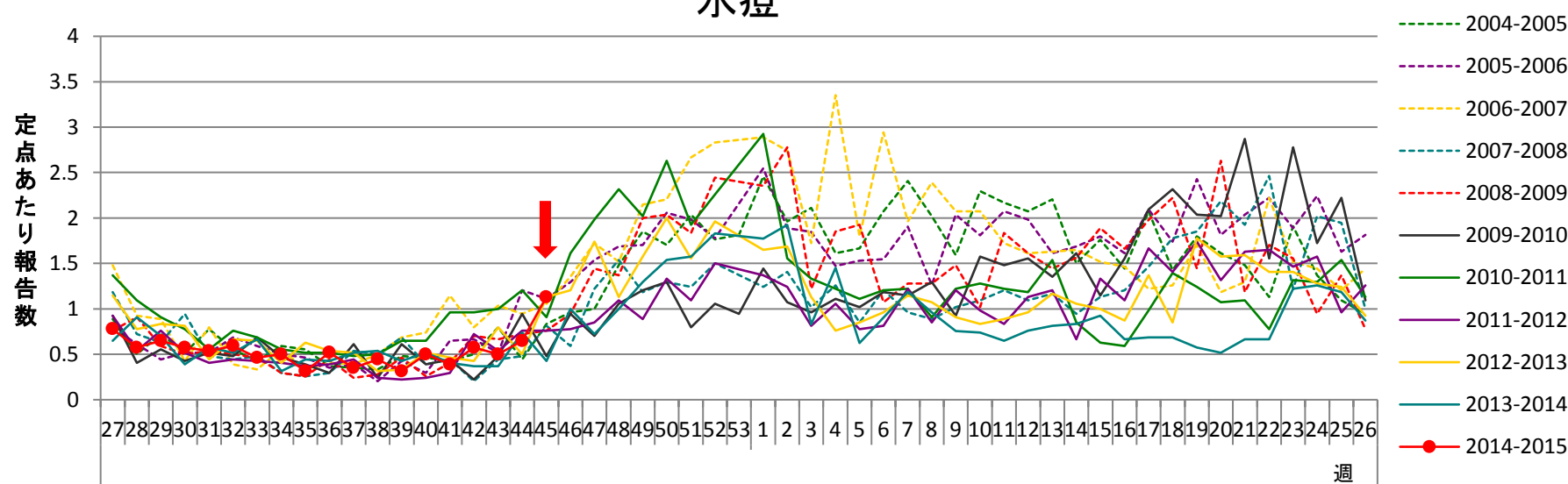
分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	1	316	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症		68	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	7	5
	エキノコックス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	2	－	デング熱	－	1	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	－	4	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	26	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	9	20	ウイルス性肝炎*3	－	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	5
急性脳炎*4		－	9	5	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	3	3	後天性免疫不全症候群	－	19	18	ジアルジア症	－	－	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	－	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	20
水痘(入院例に限る。)		－	3	－	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	15	8
播種性クリプトコックス症		－	－	－	破傷風	－	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－



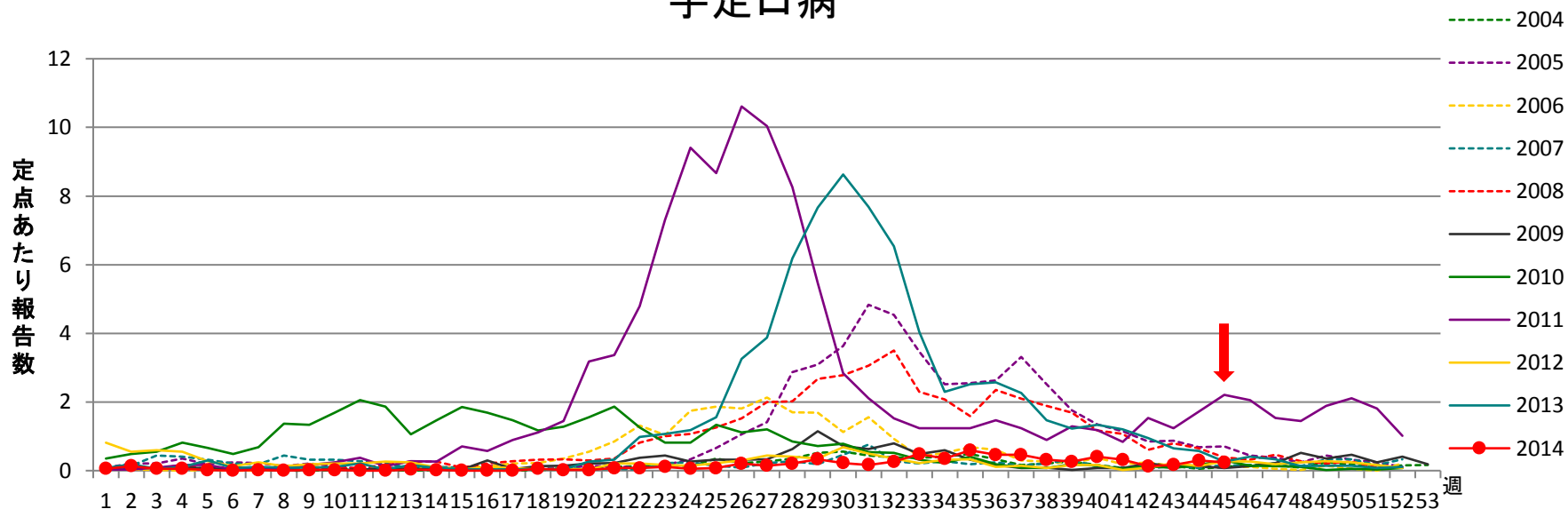
感染性胃腸炎



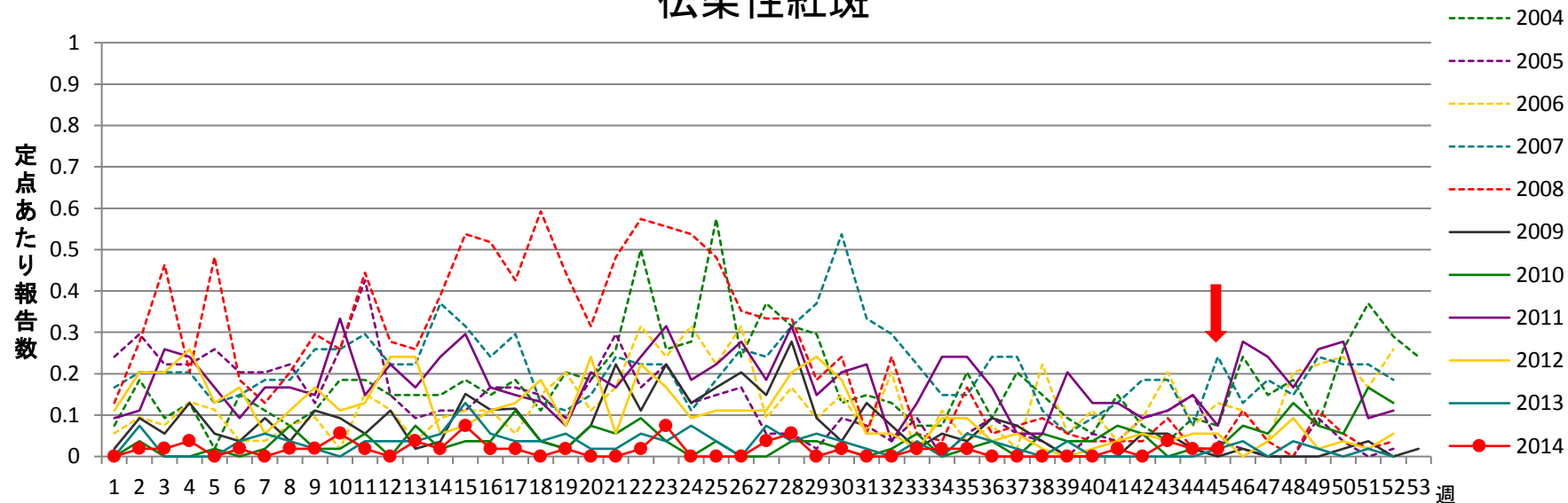
水痘



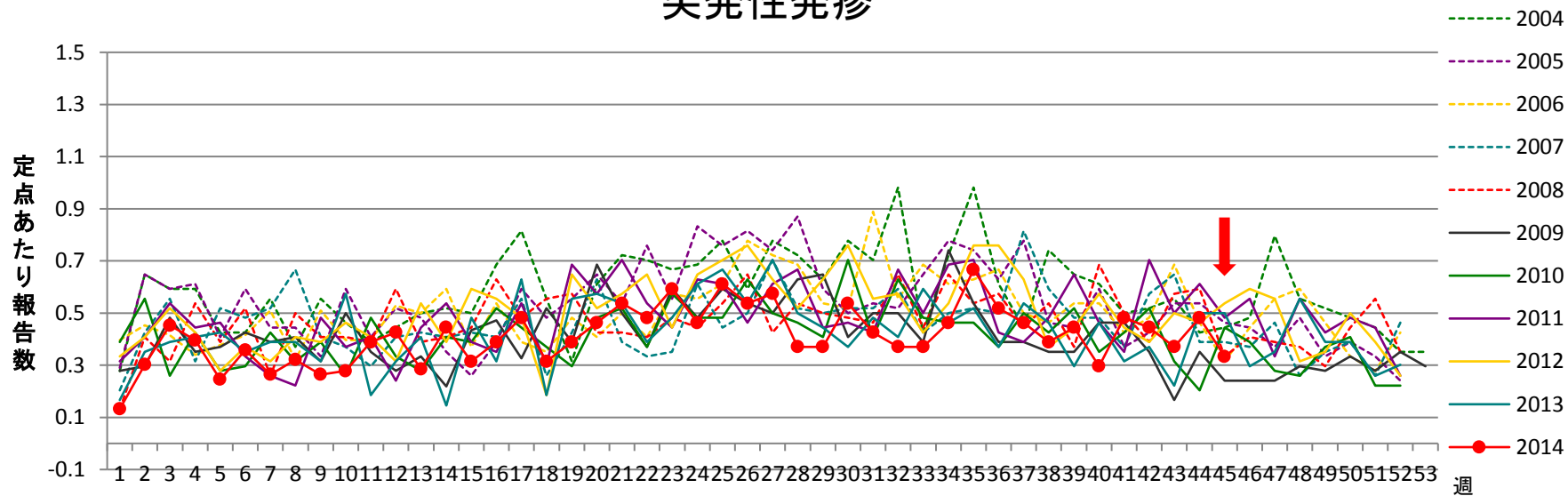
手足口病



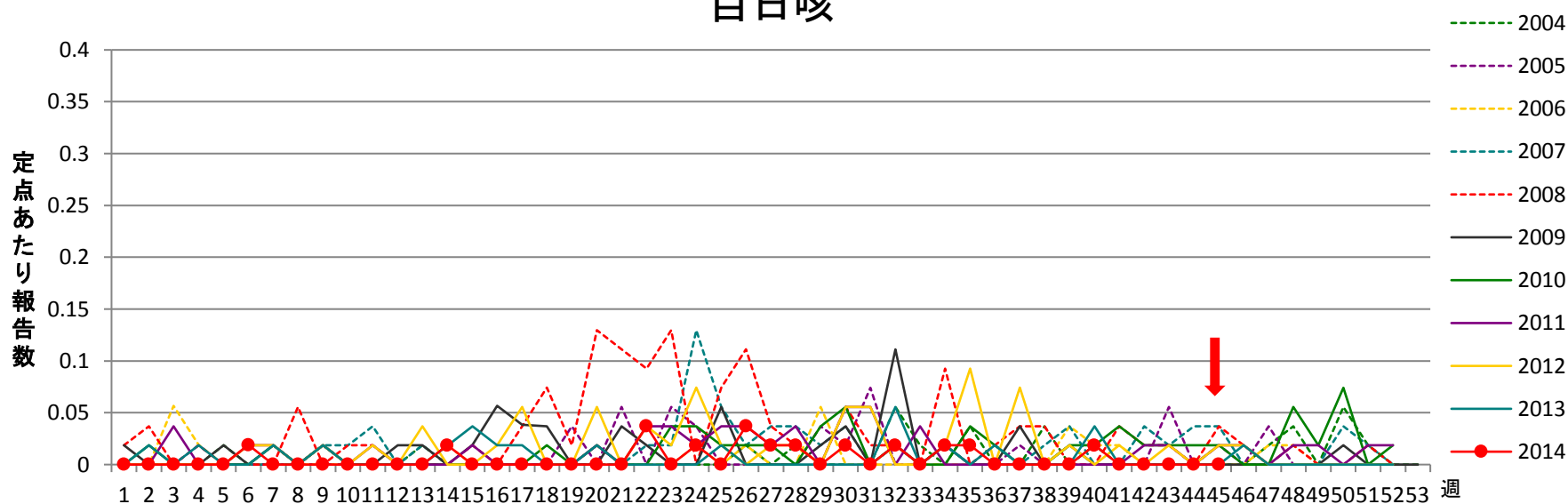
伝染性紅斑



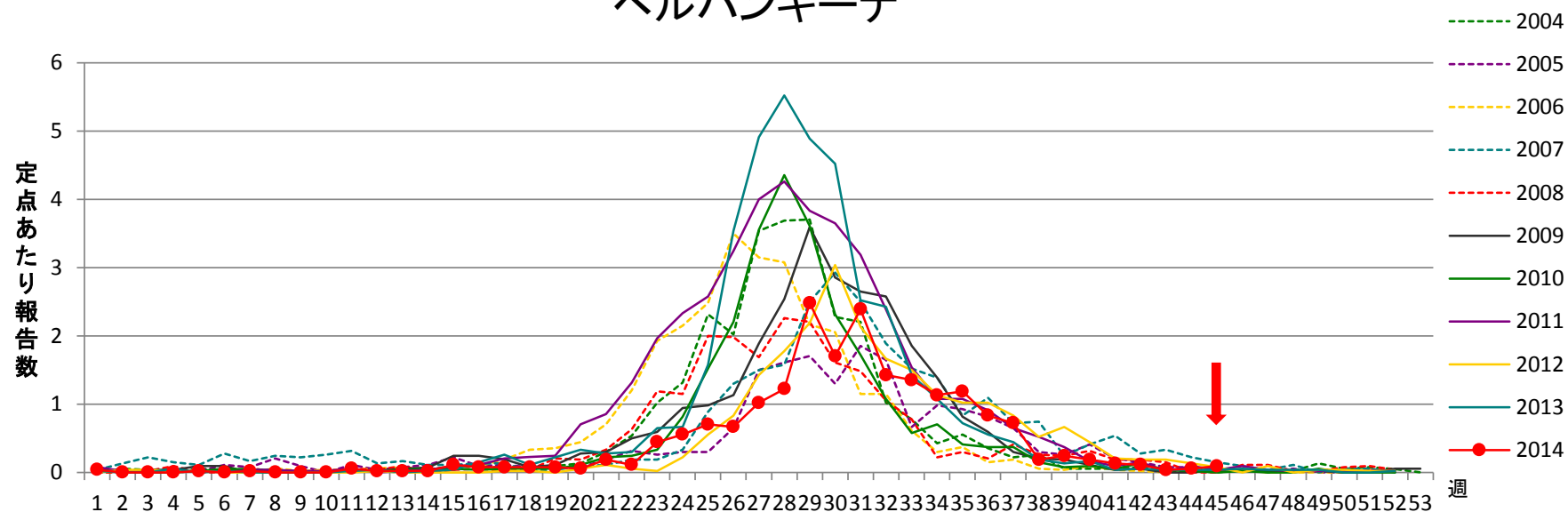
突発性発疹



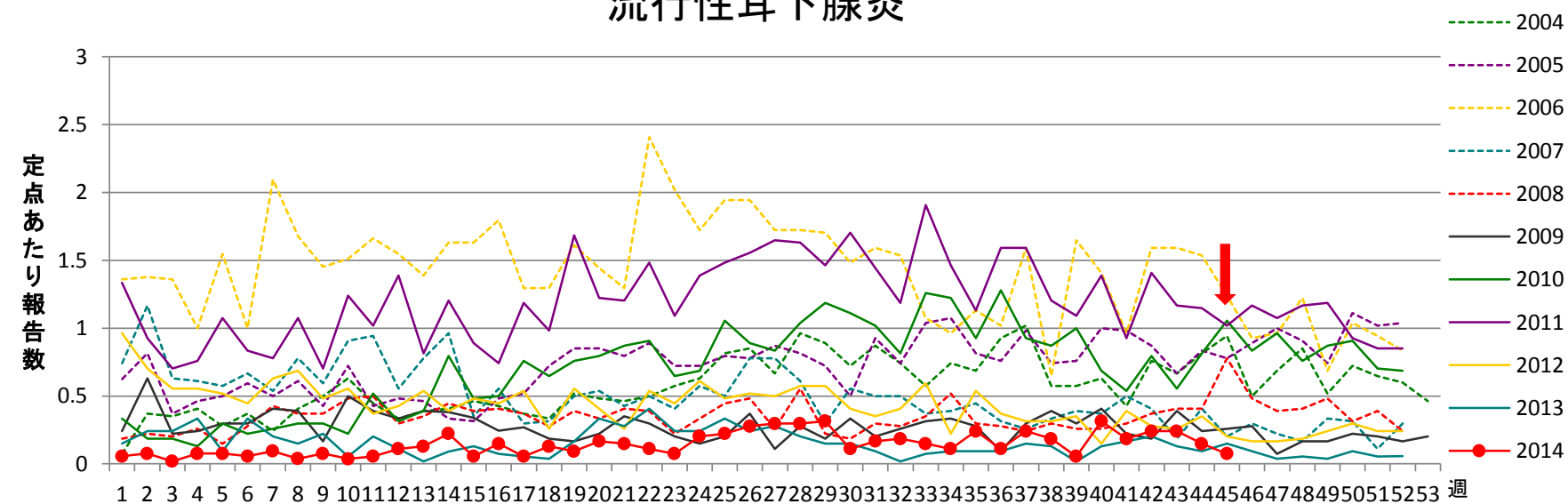
百日咳



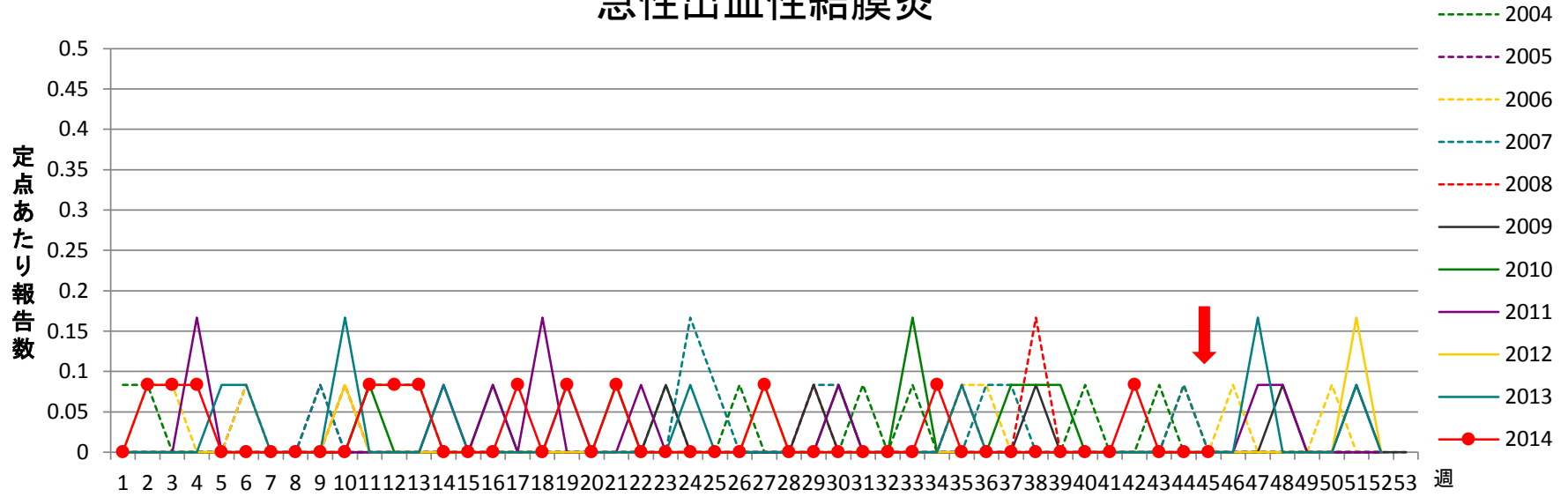
ヘルパンギーナ



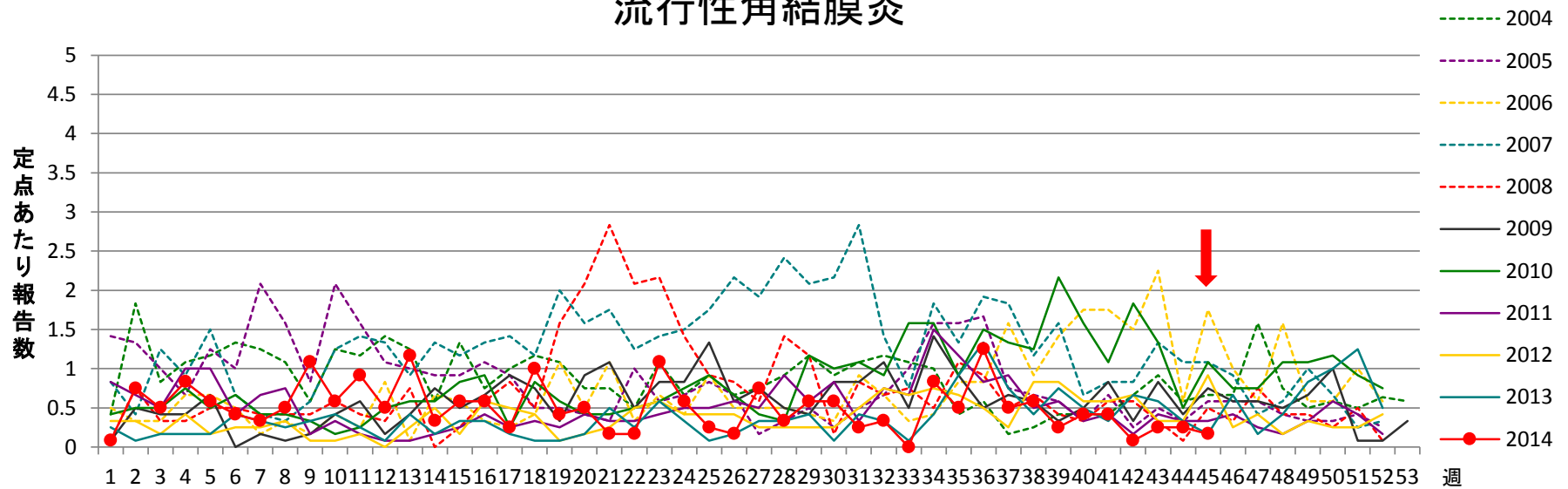
流行性耳下腺炎



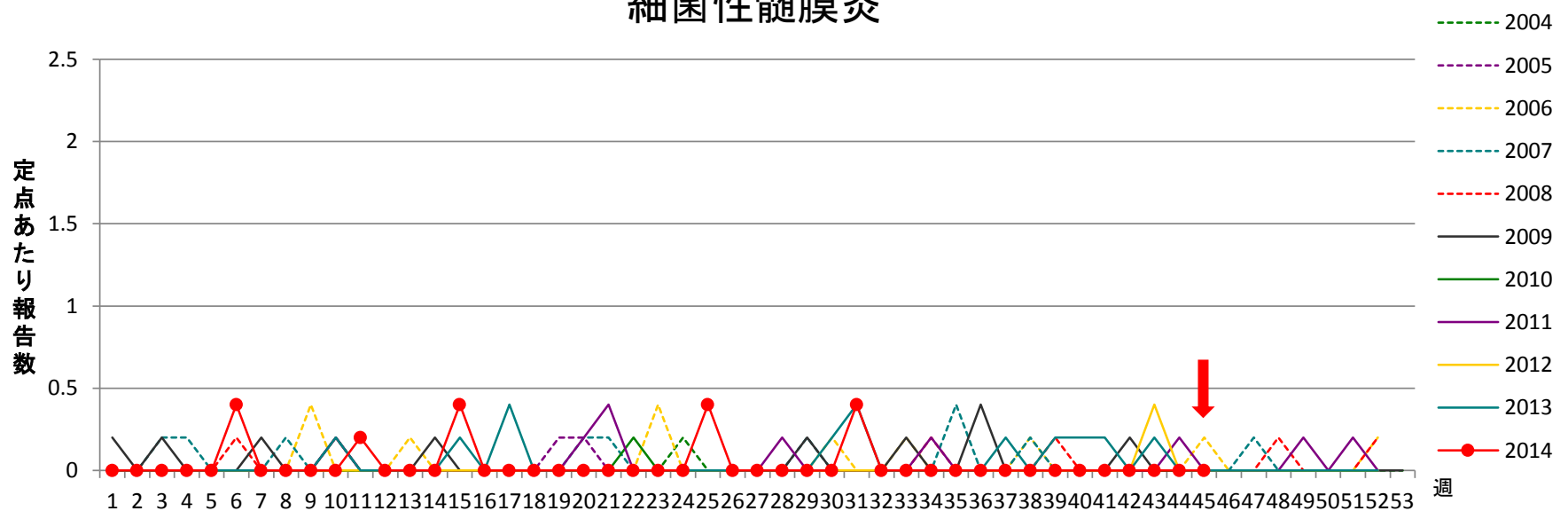
急性出血性結膜炎



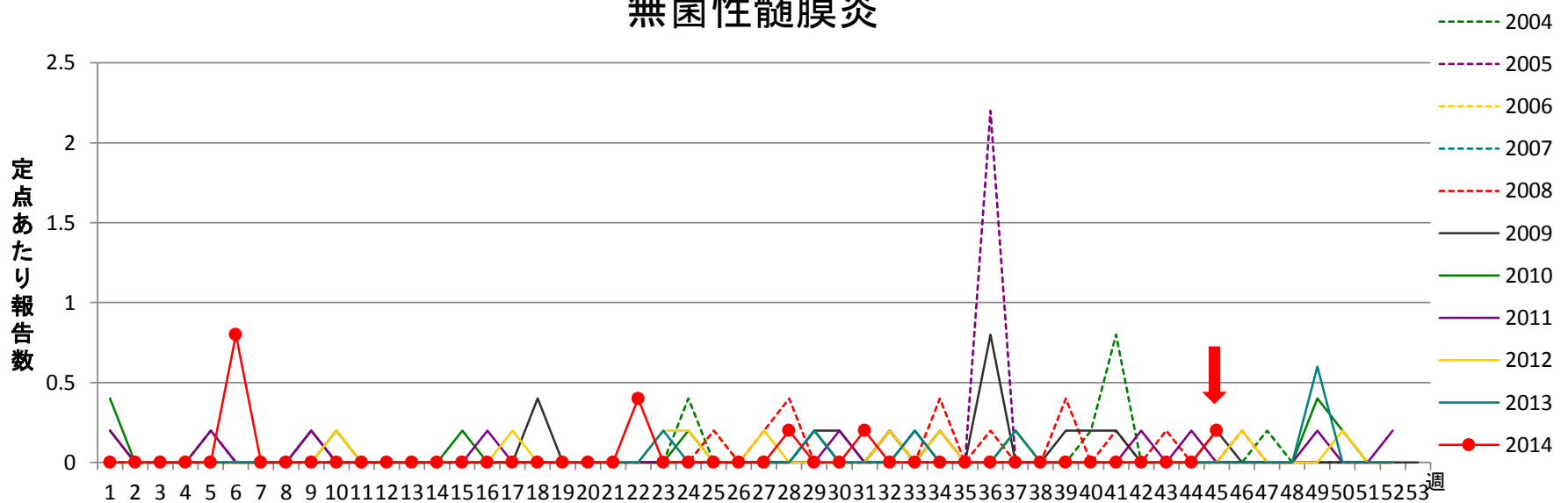
流行性角結膜炎



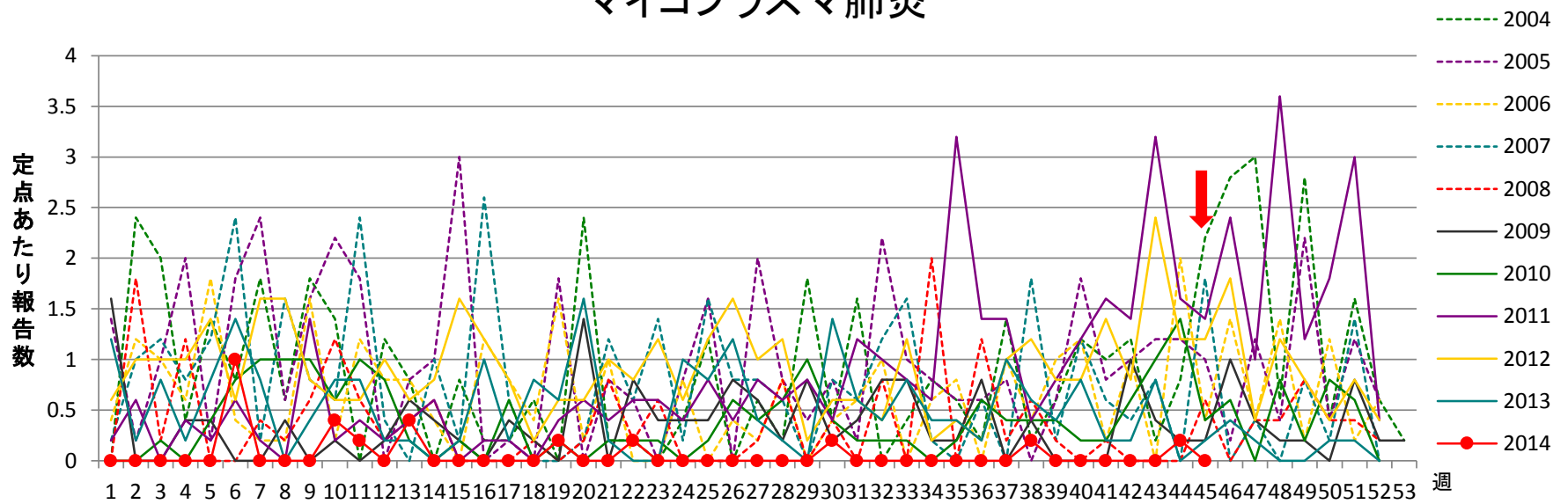
細菌性髄膜炎



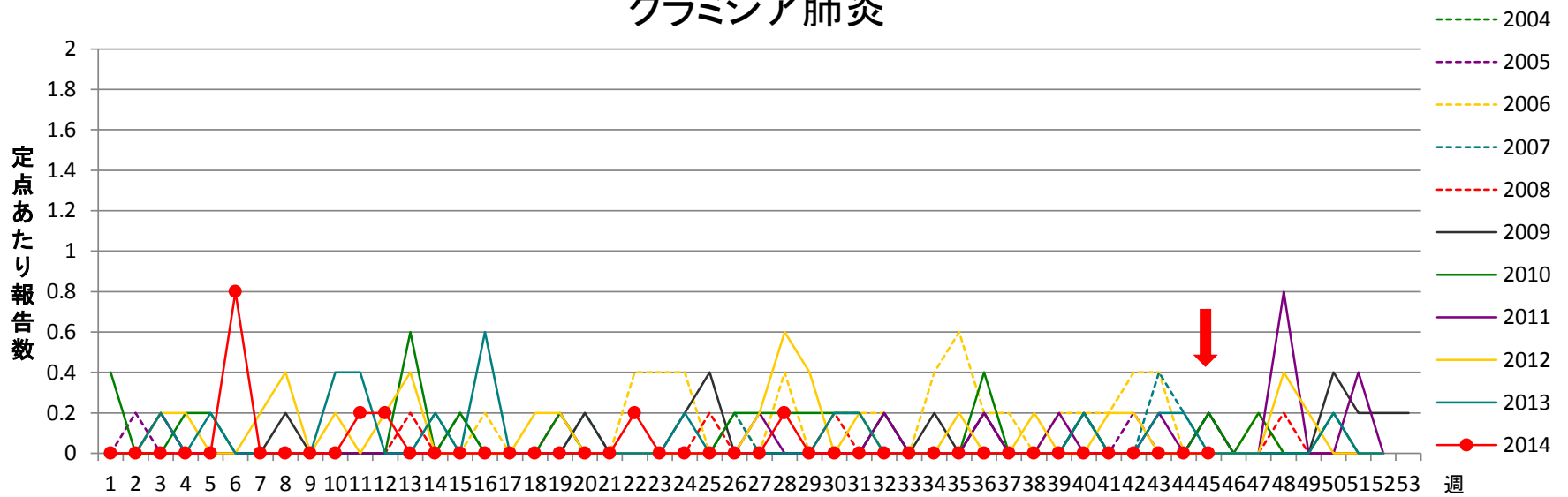
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

